

※資料に関するお問い合わせ先
奈良国立博物館 学芸部 情報サービス室
Tel 0742-22-4463(直通) Fax 0742-22-7221

令和2年1月28日
奈良国立博物館

特別陳列

お水取り

Feature Exhibition Treasures of Tōdaiji's Omizutori Ritual

特別陈列 御取水

특별진열 오미즈토리

プレスリリース

[1] 会 場 奈良国立博物館 西新館

[2] 会 期 令和2年2月4日(火)～3月22日(日)

休 館 日 2月17日(月)・25日(火)・3月16日(月)

※2月10日、2月24日、3月2日、3月9日は月曜日ですが、開館します。

開館時間 9時30分～17時

ただし、毎週金・土曜日、2月9日(日)～13日(木)は20時まで、

3月1日(日)～5日(木)、8日(日)～11日(水)は18時まで、

3月12日(木)は19時まで開館。

※いずれも入館は閉館の30分前まで

(同時期に開催の特別展「毘沙門天—北方鎮護の力ミー」は休館日と開館時間が異なります。)

[3] 主 催 奈良国立博物館、東大寺、仏教美術協会

[4] 観覧料金	一般	520円(410円)
	大學生	260円(210円)

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料です。

※（ ）内は20名以上の団体料金です。

※高校生以下または18歳未満の方と一緒に観覧される方、開館延長日の17時以降に観覧される方は団体料金が適用になります。

※2月4日(火)～3月6日(金)に、東大寺境内で無料観覧券を配布します（使用期間：3月4日(水)～6日(金)）。

※この観覧料金で、同時開催の名品展「珠玉の仏たち」「中国古代青銅器」をあわせてご覧になれます。

※特別陳列「お水取り」の観覧券で特別展「毘沙門天」はご覧になれません。

※2月4日(火)～3月6日(金)に、東大寺境内で無料観覧券を配布します。

〔使用期間：3月4日(水)～6日(金)〕

※奈良国立博物館 特別陳列「お水取り」と、東大寺ミュージアム 特集展示「二月堂修二会」の間で相互割引を実施します。特別陳列「お水取り」の半券をお持ちの方は、特集展示「二月堂修二会」が、また、特集展示「二月堂修二会」の半券をお持ちの方は、特別陳列「お水取り」が団体料金でご覧になれます。

[5] 展覧内容

お水取りは東大寺の二月堂でおこなわれる仏教法会で、正式には修二会といいます。法会の目的は、仏の前で罪過を懺悔すること（悔過）。現在は3月1日から14日までおこなわれ、その間、心身を清めた僧（練行衆）が十一面觀音の前で宝号を唱え、荒行によって懺悔し、あわせて天下安穏などを祈願します。

お水取り（修二会）は、天平勝宝4年（752）に東大寺の実忠和尚が十一面悔過を創始して以来、一度も絶えることなく不退の行法として約1260年以上にわたり営まれ続けてきました。そこには東大寺が歩んできた長い歴史が刻み込まれています。

本展は、毎年、東大寺でお水取りがおこなわれるこの時季にあわせて開催する恒例の企画です。実際に法会で用いられた法具や、歴史と伝統を伝える絵画、古文書、出土品などを展示し、お水取り（修二会）への理解が深まる一助となることを目指します。

[6] 出陳品 67件（うち 重要文化財19件）

[7] 主な出陳品 ※図版は後掲

1.	重要文化財	二月堂本尊光背 頭光	奈良 東大寺
2.	二月堂曼荼羅		奈良 東大寺
3.	二月堂縁起		奈良 東大寺
4.	重要文化財	両堂記 第六(二月堂練行衆日記)	奈良 東大寺
5.	重要文化財	香水杓	奈良 東大寺
6.	錫杖		奈良 東大寺
7.	重要文化財	二月堂神名帳	奈良 東大寺

[8] 公開講座

◆2月11日(火・祝)「不退の行法、東大寺修二会(お水取り)」

北河原 公敬 師(東大寺長老)

時間: 13時30分~15時(開場13時)

会場: 当館講堂

定員: 194名 聴講無料

※12時から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

※配布は講座開始30分後で終了します。

※入場整理券の受取の際には、観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。

[9] ボランティア解説

当館ボランティアが特別陳列「お水取り」をご案内いたします。(※事前予約不要)

期 間: 3月1日(日)~3月14日(土)の毎日

集合時間: 14時~/15時~

集合場所: 特別陳列「お水取り」会場入口(西新館2階スロープ前)

所要時間: 各約30分

[10] 関連企画

◆2月8日（土） お水取り「講話」と「現地解説」の会

内 容：1. 東大寺 上野道善長老による講話

2. 当館学芸部 斎木涼子主任研究員による特別陳列「お水取り」の
解説付き鑑賞会

3. 東大寺 橋村公英執事長の解説による二月堂の見学

時 間：12時30分～16時30分（予定）

定 員：40名（先着）※定員に達しましたので、募集を締め切りました。

参加費：無料

※ただし、本展の観覧券もしくは半券、奈良博プレミアムカード等のご提示が必要です。

お問合せ：総務課 企画推進係 0742-22-4450

月～金の 10:00～17:00（土・日・祝日は除く）

[10] 問い合わせ先

奈良国立博物館 Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町 50（奈良公園内）

ハローダイヤル 050-5542-8600

ホームページ（URL）<https://www.narahaku.go.jp/>

〈交通案内〉近鉄奈良駅下車徒歩約 15 分

またはＪＲ奈良・近鉄奈良駅から市内循環バス外回り「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

【主な出陳品】

1. 重要文化財 二月堂本尊光背 頭光 奈良 東大寺

銅造 奈良時代（8世紀）

修二会の本尊である二月堂十一面觀音（大觀音）の光背の頭光です。江戸時代の寛文7年（1667）に二月堂の火災で、本尊の光背は破損して断片が残るだけになってしましました。本品は、それらを復元的に配置したもので、表面には華麗な文様が施されています。

※二月堂本尊光背 身光は、なら仏像館にて陳列。



2. 二月堂曼荼羅 奈良 東大寺

絹本着色 室町時代（16世紀）

修二会の本尊である十一面觀音が、雲に乗って二月堂の上空に現れています。右下の閻伽井屋付近には黒・白二羽の鶴が描かれ、鶴に続いて香水が湧き出たというお水取りの由来にかかる説話を表しています。説話では、二月堂の本尊は閻伽器の上に乗って海の彼方から現れたとされますが、この絵では雲に乗って現れる「來迎」の姿で表されるのが印象的です。



3. 二月堂縁起 奈良 東大寺

紙本着色 室町時代 天文14年（1545）

修二会の創始から二月堂觀音の利益までの説話を表した絵巻です。写真は、修二会を創始したという実忠が、60年間、觀音の前で毎年14日間、六時の行法を行い、その道場に兜率天（弥勒淨土）の八天が下ったという場面です。



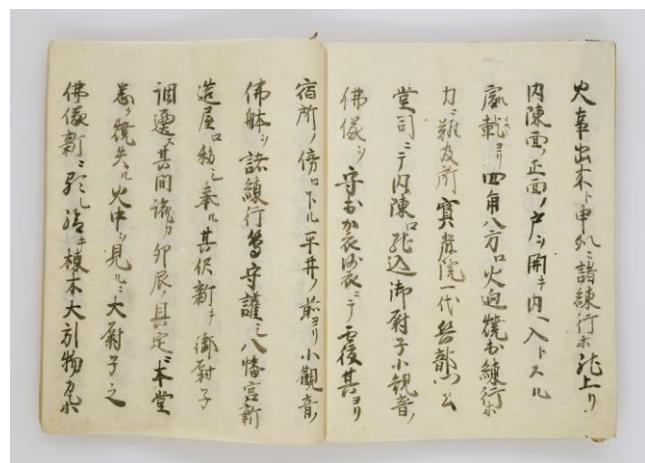
上巻（部分）

4. 重要文化財 廿堂記 第六(二月堂練行衆日記) 奈良 東大寺

紙本墨書 江戸時代(17世紀)

両堂(東大寺の法華堂と中門堂)に所属する堂衆(どうしゅう)によって書かれた修二会の記録。堂衆は各堂に勤仕し雑事を行う僧侶で、修学に専念する學侶(がくりょ)(学衆)とは区別されました。修二会では、学侶・堂衆それぞれから練行衆が選ばれていました。

学侶方の日記と同様、修二会期間中の特記事項について記しますが、同じ出来事について異なる視点で述べられている場合もあります。寛文7年(1667)の二月堂が焼亡した際は、火中から本尊・小観音を救出した様子、焼け跡に立つ大観音が簾(すだれ)で覆われたこと、小観音が法華堂に安置されたことなど、具体的な処置の様子が記されます。



5. 重要文化財 香水杓 奈良 東大寺

銅製 鎌倉時代

その1：鎌倉時代 建長5年(1253)

その2：鎌倉時代 建長7年(1255)

二月堂本尊に香水を供えた後、堂内の参詣者に香水を分ける際に柄杓として用いたもので、注口のついた形はお水取り独特のものです。壺の側面に線刻銘があり、制作年代と施入者がわかります。



(上：その2 下：その1)

6. 錫杖 奈良 東大寺

頭部=銅製 鍍金 柄=鉄製

江戸時代（18～19世紀）

錫杖は僧侶の用いる道具で、山野での遊行や托鉢に用いられるほか、儀礼に当たって宗教的雰囲気を高めるためにも使用されます。本品は修二会の下七日（後半の7日間）の半夜、**晨朝**に行われる「錫杖」の儀礼に際して鈴（鏡）とともに打ち鳴らされるもので、頭部に刻まれた銘文から修二会に用いるために二月堂に寄進されたものであることがわかります。



7. 重要文化財 二月堂神名帳 奈良 東大寺

紙本墨書 室町時代 大永8年（1528）

修二会の期間中、練行衆が1日に6度おこなう勤行のうち、初夜の行中に読み上げられるのが神名帳です。これは、日本各地の神々を二月堂の守護神として勧請するためのもので、練行衆による他の声明と同じように、独特の節とリズムが付けられています。本品は二月堂の神名帳の写本では現存最古のもので、読み仮名や読み上げ時の節を示す注記も付けられています。

